

100916

どうなる訪問系介護サービスの行方 - 在宅重視・地域包括ケアが示す事業者の姿 (9.13)参加者の質問から

Q 講演の中で 介護保険 3 施設の一元化や居住系サービスの再編ということが話されたが どのような方向に進んでいくのか。

A セミナーの中でもお話ししたように 具体策が固まっている状況ではありません。しかし 施設の一元化は2003年の「高齢者介護研究会」でも話題になったテーマです。

政府や有識者の間では 次のように施設・居住系サービスの機能を整理・分類して議論がなされています。



このように 住宅とケアを切り分ければ (居住とケアの分離) 施設・居住系サービスの種別ごとの差は大きな問題ではなくなると考えられています。具体的には 内包するサービスを「モジュール化」すれば解決ができるということです。「モジュール」というのは「システムを構成する要素となるもの」という意味で いくつかの部品の機能を集めまとまりのある機能を持った部品つまり医療や介護などのサービスとお考えいただければ わかりやすいと思います。

さらに 居住系サービスを充実させるには「大手資本の参入」が必要だということも 公然と議論されています。

この点に関しては 山井和則厚生労働政務官が9月13日の政務三役会議後の記者会見で 有料老人ホームと高専賃の対象者が重複している点や有料老人ホームの多くが一時入居金を支払って終身利用権を得る利用権方式を採用している一方で 高専賃が毎月家賃を払う賃貸借方式になっている違いなどを踏まえた上で 有料老人ホームと高専賃の役割をどう分担させるかが重要な論点になると発言しました。また 有料老人ホームに「介護付」「住宅型」「自立型」があり 料金も利用権方式と賃貸借方式に分かれており さまざまな種類があることを指摘し「有料老人ホームの役割を一度立ち止まって考えることになると思う」とも述べました。

この発言だけで 高専賃と有料老人ホームの一元化が決定したということではありませんが 方向性が明らかになりつつあることは確かです。